

第32回環境情報科学 学術研究論文発表会

ー 同時開催 第15回環境情報科学ポスターセッション ー

日時：2018年12月17日（月）8：55～19：00（受付開始 8：30）

会場：日本大学会館大講堂ほか
〒102-0074 東京都千代田区九段南4丁目8番24号 TEL. 03-5275-8110

- 内容：・環境科学に関する研究論文発表 57 題（内 口頭発表 50 題・ポスター発表 7 題）
・環境科学に関するポスターセッション約 50 題
・会員からの公募による企画セッション（4セッション）：
①再生エネルギー100%社会の実現に向けてー世界の動向と日本の取り組みー
②SDGsの地域社会との接合可能性を探るーマルチステイクホルダー・パートナーシップの観点から
③海洋資源開発における海洋環境影響評価
④アジア地域の持続可能な社会形成の法政策制度とその社会実装に向けてーCCSを事例としてー
・一般公開シンポジウム「第5次環境基本計画の策定等を踏まえた持続可能な開発目標（SDGs）の達成への取組と環境研究からの貢献」
・研究者交流会（優秀ポスターの表彰ほか）

参加費：正会員・賛助会員 2,000 円 準会員 1,000 円 非会員一般 3,000 円 非会員学生 1,500 円
（ただし シンポジウムのみ参加は参加費無料。その場合、開場受付 14：45～）

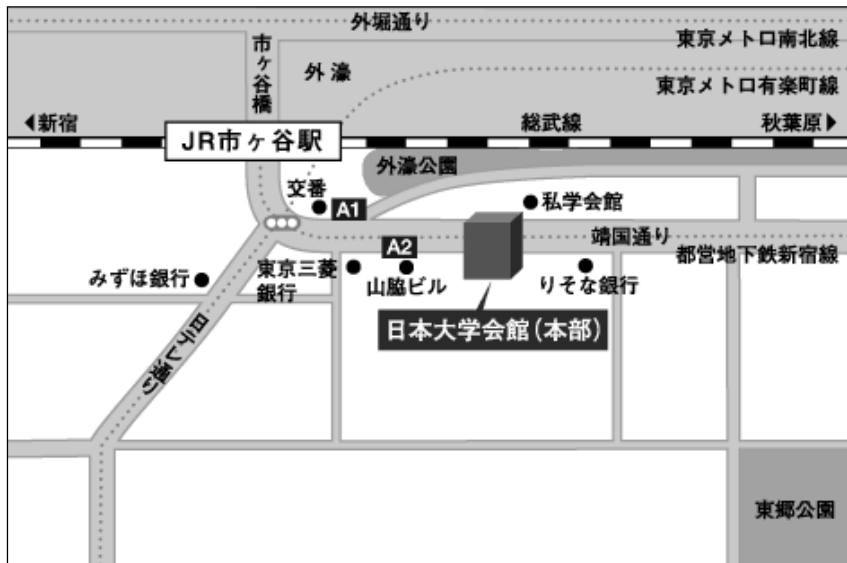
※研究者交流会参加費（希望者のみ）：

正会員・賛助会員 3,000 円 準会員 2,000 円 非会員一般 4,000 円 非会員学生 2,500 円

◆問合せ先（事前申込不要）◆

一般社団法人環境情報科学センター 事務局
〒102-0074 東京都千代田区九段南3-2-7いちご九段三丁目ビル
TEL: 03-3265-3916 FAX: 03-3234-5407 E-mail: member-jimukyoku@ceis.or.jp
URL: <http://www.ceis.or.jp/>

◆会場地図◆



(日本大学ホームページより転載)

【交通】

JR 市ヶ谷駅下車 徒歩2分、東京メトロ・都営地下鉄 市ヶ谷駅下車 徒歩2分

第32回 環境情報科学 学術研究論文発表会 全体プログラム

※収容人数

	A会場(大講堂) ※約200名	B会場(大講堂) ※約100名	C会場(204会議室) ※約30名	D会場(203会議室) ※約40名	E会場(201会議室) ※約20名
8:30	受付開始				
8:55	開会挨拶(論文審査委員長)				
9:00	論文発表 <論文口頭発表> 発表セッション① 「都市・地域環境」 9:00~10:30		論文発表 <論文口頭発表> 発表セッション② 「景観」 9:00~10:00	論文発表 <論文口頭発表> 発表セッション⑥ 「環境教育・市民参加」 9:00~10:30	論文発表 <論文口頭発表> 発表セッション⑦ 「レクリエーション・観光」 9:00~10:00
9:15			論文発表 <論文口頭発表> 発表セッション③ 「気候変動・エネルギー」 10:00~11:00		論文発表 <論文口頭発表> 発表セッション⑧ 「環境心理」 10:00~12:00
9:30					
9:45					
10:00	企画セッション 企画セッション① 「再生エネルギー100%社会 の実現に向けてー世界の動 向と日本の取り組みー」 11:00~12:30	ポスター発表・ポス ターセッション ○論文ポスター発表(7題) ○環境情報科学ポスター セッション(約50題) ***** ※質疑応答:11:45~13:45 ※ポスター展示時間: 11:00~14:30	論文発表 <論文口頭発表> 発表セッション④ 「地域・制度設計」 11:00~12:30	企画セッション 企画セッション③ 「海洋資源開発における海 洋環境影響評価」 11:00~12:30	
10:15					
10:30					
10:45					
11:00	企画セッション 企画セッション② 「SDGsの地域社会との接合 可能性を探るーマルチステ イクホルダー・パートナーシ ップの観点からー」 13:15~14:45		論文発表 <論文口頭発表> 発表セッション⑤ 「生態系・水環境・熱環境」 13:15~14:45	企画セッション 企画セッション④ 「アジア地域の持続可能な社 会形成の法政策制度と その社会実装に向けてー CCSを事例としてー」 13:15~14:45	論文発表 <論文口頭発表> 発表セッション⑨ 「地域・農村」 13:15~14:45
11:15					
11:30					
11:45					
12:00					
12:15					
12:30					
12:45					
13:00					
13:15					
13:30					
13:45					
14:00					
14:15					
14:30					
14:45					
15:00	シンポジウム 一般公開シンポジウム 「第5次環境基本計画の策定 等を踏まえた持続可能な開 発目標 (SDGs)の達成への取組と 環境研究からの貢献」 15:00~17:15				
15:15					
15:30					
15:45					
16:00					
16:15					
16:30					
16:45					
17:00					
17:15					
17:30					
17:45					
18:00		研究者交流会 (優秀ポスター発表等) 17:30~19:00			
18:15					
18:30					
18:45					

「第5次環境基本計画の策定等を踏まえた持続可能な開発目標（SDGs）の達成への取組と環境研究からの貢献」

日 時：2018年12月17日（月）15：00～17：15（14：45開場）

場 所：日本大学会館 大講堂 A会場（東京都千代田区九段南4-8-24（JR市ヶ谷駅 徒歩2分））

主 催：一般社団法人 環境情報科学センター

後 援：環境省

開催趣旨：環境情報科学センター（CEIS）では、SDGsの達成に向けて、環境研究面からの貢献を促進するため、昨年12月に「SDGsの達成に向けた多様な環境研究の取組みと今後への期待」をテーマとしてシンポジウムを開催しました。その後、SDGsアクションプラン2018の策定、SDGs未来都市の選定、第5次環境基本計画や第4次循環型社会形成基本計画、エネルギー基本計画の策定等が行われました。特に新環境基本計画では、地域循環共生圏の創造を通じて、環境、経済、社会の統合的向上に取り組み持続可能な社会を達成していくことが目指されています。さらに、国際的には、本年7月に国連ハイレベル政治フォーラムにおいてSDGsの実施状況のレビューの実施、12月には第24回気候変動枠組条約締約国会議が開催され、パリ協定の実施細目が合意される状況になっています。

今年度は、このような持続可能な社会の形成に向けて加速しつつある国内外の動きを踏まえ、環境アセスメント、循環の分野での研究、また、SDGs・地域循環共生圏の達成に向けた研究とそれに基づく自治体の実践という観点から、各研究分野や分野間の連携についてSDGsの達成に向けた研究の課題や推進方策等を議論することにより、SDGsの達成への取組みを環境研究面から促進することを目指します。

なお、本シンポジウムは、環境情報学術研究論文発表会の一環として開催するもので、会員に限らず広く一般の方も対象に公開して開催します。

参加費：無料（事前申込不要）

プログラム

1) 特別講演（15分）

「Society5.0時代の“地域循環共生圏”実現とSDGs達成への取組—第5次環境基本計画への環境研究の貢献—」

森本 英香 氏：環境事務次官

2) 基調講演（25分）

「第5次環境基本計画とSDGsの達成に向けた取組みについて」

浅野 直人 氏：前中央環境審議会会長、福岡大学名誉教授、太宰府市環境審議会会長、福岡県環境審議会会長、北九州市環境審議会会長

3) テーマ別講演（各15分）

「環境アセスメント分野でのSDGsへの取組み」

村山 武彦 氏：東京工業大学環境 社会理工学院 教授・CEIS 理事

「SDGsと循環型社会の指標・目標」

森口 祐一 氏：東京大学大学院工学系研究科 教授

「地域課題解決と社会的投資の促進に向けたSDGs社会的インパクト評価実証プロジェクト」

山口健太郎 氏：神奈川県いのち・SDGs 担当理事

4) パネルディスカッション（50分）

モデレーター 村上暁信 氏：筑波大学システム情報系 教授・CEIS 理事

パネラー 村山 武彦 氏：（前掲） 森口 祐一 氏：（前掲） 山口健太郎 氏：（前掲）

問い合わせ先：一般社団法人環境情報科学センター 事務局（〒102-0074 東京都千代田区九段南3-2-7）
E-mail member-jimukyoku@ceis.or.jp TEL 03-3265-3916 FAX 03-3234-5407

■ 講演者・モデレーター プロフィール (講演順：敬称略) ■

特別講演 森本 英香 (もりもと ひでか) : 環境事務次官

大阪府出身 1957年1月生 昭和56年環境庁入庁
環境省大臣官房長、原子力規制庁次長、原子力安全規制組織等改革準備室長(内閣官房内閣審議官)、環境省大臣官房審議官(自然保護担当)・総務課長・秘書課長のほか、国際連合大学(UNU)上級フェロー、East West Center 研究員(アメリカ)、地球環境パートナーシッププラザ所長、地球温暖化京都会議(COP3)議長秘書官等を経て、2017年7月より現職。東京大学法学部私法学科、政治学科卒 早稲田大学非常勤講師

基調講演 浅野 直人(あさの なおひと) :

前中央環境審議会会長、福岡大学名誉教授、太宰府市環境審議会会長、
福岡県環境審議会会長、北九州市環境審議会会長

1943年名古屋生まれ、1966年九州大学法学部卒、同大学院、助手を経て、1972年から福岡大学法学部に勤務、1980年から福岡大学教授、2014年同名誉教授。1980年から環境庁・環境省の多数の委員会委員。この間、環境科学会会長、環境アセスメント学会会長、中央環境審議会委員・同部会長・会長、福岡市環境審議会会長などを歴任。現在も中央環境審議会臨時委員、福岡県・北九州市環境審議会会長などの職にある。専門は民法・環境法。

テーマ別講演① 村山 武彦(むらやま たけひこ) : 東京工業大学環境 社会理工学院 教授・CEIS 理事

東京工業大学大学院博士課程修了(工学博士)。福島大行政社会学部助教授、早稲田大創造理工学部教授などを経て現職。環境影響評価、リスク評価、環境計画や政策を中心に教育研究に携わる。中央環境審議会の環境影響評価小委員会委員、国際協力機構(JICA)の環境社会配慮助言委員会委員長などを歴任。2008年から Environmental Impact Assessment Review (Elsevier)の国際編集委員、2010年から一般社団法人日本リスク研究会事務局長、2012年から環境アセスメント学会副会長。

テーマ別講演② 森口 祐一(もりぐち ゆういち) : 東京大学大学院工学系研究科 教授

京都大学工学部衛生工学科卒業。1982年国立公害研究所総合解析部研究員。国立環境研究所社会環境システム研究領域資源管理研究室長等を経て、2005年国立環境研究所循環型社会形成推進・廃棄物研究センター長。2011年東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻・教授(現職)。日本学術振興会学術システム研究センター主任研究員(環境学担当)、日本学術会議連携会員、日本 LCA 学会会長、廃棄物資源循環学会副会長。2013年産業エコロジー国際学会(ISIE) Society Prize 受賞、2014年環境科学会学術賞受賞。専門は環境システム学・都市環境工学。

テーマ別講演③ 山口 健太郎(やまぐち けんたろう) : 神奈川県いのち・SDGs 担当理事

昭和 58(1983)年 神奈川県 入庁
平成 6~8年 神奈川県口サンゼルス駐在員
平成 25(2013)年 参事兼国際戦略総合特区推進課長
平成 26(2014)年 ヘルスケア・ニューフロンティア推進局事業統括部長
平成 28(2016)年 ヘルスケア・ニューフロンティア推進統括官
平成 30(2018)年 理事(いのち・SDGs 担当)

モデレーター 村上 暁信(むらかみ あきのぶ) : 筑波大学システム情報系 教授・CEIS 理事

東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了後、東京大学助手、ハーバード大学研究員、東京工業大学講師、MIT 研究員等を経て現職。専門は緑地計画、都市農村計画。著書に『これからの日本に都市計画は必要ですか?』(共著、学芸出版、2014年)、" Sustainable Landscape Planning in Selected Urban Regions" (編著、Springer Japan、2017年) など。

＜企画セッション・プログラム＞

企画セッション	開催時間	会場	タイトル
①	11:00~12:30	A会場	再生エネルギー100%社会の実現に向けてー世界の動向と日本の取り組みー
②	13:15~14:45	A会場	SDGsの地域社会との接合可能性を探るーマルチステイクホルダー・パートナーシップの観点からー
③	11:00~12:30	D会場	海洋資源開発における海洋環境影響評価
④	13:15~14:45	D会場	アジア地域の持続可能な社会形成の法政策制度とその社会実装に向けてーCCSを事例としてー

企画セッション

①

再生エネルギー100%社会の実現に向けて ー世界の動向と日本の取り組みー

【趣旨】再生エネルギー100%（以下、RE100）は世界的な広がりを見せている。国際環境NPO「The Climate Group」が立ち上げた「RE100」には多くのグローバル企業・組織が参加を表明し、長野県のような地方自治体も地域一体となって自然エネルギーの導入やそれによる社会経済の活性化を行っている。日本で最初に自然エネルギー100%大学を宣言した千葉商科大学は、「商いの力」によるRE100を目指し、学生を巻き込んだ省エネ活動や教育、適切な行動選択のためのハートウエア醸成、地域社会への展開などを実施している。本セッションでは、各々の分野で活躍する識者がRE100における世界動向や、日本での取組事例を紹介し、RE100推進にあたっての課題や効果、今後の展望などについて議論する。

企画責任者

(主)原科幸彦(千葉商科大学)・(副)橋本隆子(千葉商科大学)

発表者・ 発表テーマ

1. 吉原 毅(城南信用金庫):「RE100の地域経済効果」(20分)
2. 原科幸彦(千葉商科大学)・高橋百合子(千葉商科大学)・手嶋進(CUCエネルギー株式会社):「RE100の先駆け、千葉商科大学」(20分)
3. 大野輝之(公益財団法人自然エネルギー財団):「RE100運動の世界での展開」(20分)

その他

以上3題の発表後、まず予定討論者、笹谷秀光氏(CSR/SDGコンサルタント)のコメントを受け、パネル討論を30分ほど行う。討論ではフロアからの発言も受け、討論する。また、冒頭で、企画責任者(副)の橋本隆子が、本セッションの趣旨説明を行う。

企画セッション

②

SDGsの地域社会との接合可能性を探る ーマルチステイクホルダー・パートナーシップの観点からー

【趣旨】2015年に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」と「持続可能な開発目標(SDGs)」は、社会的な認知を高める段階から、いかに社会実装していくかという段階に入っている。とくに国レベルでの対応から、地域社会とSDGsの接合を具体的に進めていくことが重要な課題である。本セッションでは、SDGsの総合的もしくは概略的な解説ではなく、主に環境分野での具体的な取組事例をつづじて、行政・企業・NPO・大学等のマルチステイクホルダーによる協働の観点から、SDGsと地域社会の接合可能性について検討する。とくに、環境分野での協働取組による各ゴールの同時解決の可能性や、それによってもたらされるトレード・オフについて議論したい。

企画責任者

(主)石井雅章(神田外語大学准教授)・(副)村松陸雄(武蔵野大学教授)

発表者・ 発表テーマ

1. 村松陸雄(武蔵野大学教授):「本セッションの目的と背景」(10分)
2. 滝口直樹(武蔵野大学客員准教授/合同会社環境活動支援工房代表社員、元環境省職員):「SDGsとローカルアジェンダ21」(15分)
3. 高橋朝美(一般社団法人環境パートナーシップ会議/関東EPO担当):「地域の課題解決のための協働取組とSDGsーいくつかの環境省事業からの視点」(15分)
4. 村山史世(麻布大学生命・環境科学部専任講師/武蔵野大学客員准教授):「水源地での取り組みから考えるSDGsと地域社会の接合」(15分)
5. 長岡素彦(一般社団法人地域連携プラットフォーム代表理事):「市民社会から考えるSDGsと地域社会との接合」(15分)
6. 石井雅章(神田外語大学准教授):「企業によるSDGsの取り組みと地域社会との接合」(15分)

【趣 旨】

日本では最近、海洋鉱物資源の探査と開発に向けた技術開発が進められている。そのような探査・開発と海洋環境の保全と持続可能な利用（国連 SDGs14）の両立を図るため、海洋環境影響評価が重要となり、その手法の標準化が国際的に進められようとしており、研究が進められている。このセッションでは、このような動向を踏まえ、海洋環境影響の評価方法及びそのための海洋環境観測方法の最新の研究成果及び動向に関する発表を行い、情報交換を行う。

企画責任者

(主) 吉田 公一 (横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院)
(副) 中村由行 (横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院)

発表者・
発表テーマ

1. 吉田公一 (横浜国立大学大学院)：海洋環境影響評価方法の国際標準化 (15分)
2. 山本啓之 (JAMSTEC), 三輪哲也 (JAMSTEC)：海洋調査観測技術の研究開発と環境影響評価への応用について (15分)
3. 青木望美 (横浜国立大学大学院), 柴田由紀枝 (横浜国立大学大学院), 島田克也 (日本環境アセスメント協会, いであ株式会社), 中田達也 (東京海洋大学大学院), 松田裕之 (横浜国立大学大学院)：海洋環境影響評価の推進に向けた法的検討 (15分)
4. 柴田由紀枝 (横浜国立大学大学院), 藤倉克則 (JAMSTEC), 松田裕之 (横浜国立大学大学院)：深海生態系のリスク管理に関する一提案 (15分)

その他

発表の後に、これらの発表及び関連する技術に関して、海洋資源開発における海洋環境影響評価方法及び海洋環境状況把握方法に関して、討議を行います。

【趣 旨】

アジア域の中核都市において今後必要となる経済成長や最終消費財・サービスの需要を満たしながら、GHG 排出量、環境汚染物質の大規模削減を同時に実現する持続可能な社会へと移行させ、更にその移行に必要な環境技術のイノベーション創出が惹起する法規制・政策及び国際的協定などの社会制度について議論を行う。具体的には、アジア域内の潜在的貯留量が大きく、今後大規模削減技術として有望である二酸化炭素回収貯留 (CCS) を事例に、アジア域で CCS の導入・普及を図る諸国の法整備や二・多国間の共同実施で必要となる協定・共通ルールのあり方に関する報告を行い、低環境負荷型社会への移行シナリオについて議論する。

企画責任者

(主) 柳 憲一郎 (明治大学 法学部専任教授)
(副) 小松 英司 (明治大学 環境法センター専門研究員)

発表者・
発表テーマ

1. 柳 憲一郎・明治大学法学部専任教授：「CCS の包括的な法政策」(20分)
2. 大塚 直・早稲田大学法学部教授：「日本における CCS 基本法」(20分)
3. 岡松暁子・法政大学人間環境学部教授：「温暖化対策のための国際協定」(20分)
4. 小松英司・明治大学環境法センター専門研究員：「CCS の普及導入政策とシナリオ」(20分)
5. 質疑応答 (10分)

その他

この企画セッションは、環境省環境研究総合推進費「二酸化炭素回収・貯留 (CCS) の導入・普及の法的枠組みと政策戦略に関する研究」及び科研費基盤 B (17H04488)「アジア太平洋地域における地域・特性に適した CCS 包括的法規制の構築に関する研究」等の研究成果に基づき企画したものである。

論文発表に関するセッションプログラム

※当日の座長は変更になる場合もあります。

1) 口頭発表

発表セッション①「都市・地域環境」<A会場>

発表時間	タイトル	筆頭著者	所属	掲載頁	座長
9:00~9:15	遺産資源に関するデジタル配列情報の利用に係る各国の主張とその考察	小林邦彦	総合地球環境学研究所 研究部	pp. 303~308	錦澤滋雄 (東京工業大学環境・社会理工学院)
9:15~9:30	Fiscal Capacity and Regulatory Enforcement Action on Haze Pollution: Empirical Evidence from Indonesia	Firman Tatariyanto	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科	pp. 1~6	
9:30~9:45	インドネシアの国立公園におけるガバナンスによる森林保全効果	高橋 進	共栄大学 教育学部	pp. 7~12	
9:45~10:00	建築物の年代間での同一性判定を用いた東京都市圏における更新量の推計	朝隈友哉	名古屋大学大学院環境学研究科	pp. 13~18	村野昭人 (東洋大学理工学部)
10:00~10:15	中国の都市レベルのCO2排出構造の分析と政策的評価	邱 聖娟	早稲田大学大学院 環境・エネルギー研究科	pp. 19~24	
10:15~10:30	サステナビリティ報告書におけるSDGs記載の課題：統合的アプローチによる考察	小坂真理	慶應義塾大学政策・メディア研究科	pp. 25~30	

発表セッション②「景観」<C会場>

発表時間	タイトル	筆頭著者	所属	掲載頁	座長
9:00~9:15	The Spatial Feature of Changchun Garden from the Perspective of the Disposition of Architecture, Hills and Water	胡 嘉誠	千葉大学大学院園芸学研究科	pp. 31~36	村上暁信 (筑波大学システム情報系)
9:15~9:30	街路空間における植栽がアイストップと景観形成に及ぼす効果に関する研究	中井朋子	フリーランス	pp. 37~42	
9:30~9:45	はみ出し喫煙をもたらし喫煙所の特徴	谷下雅義	中央大学理工学部	pp. 43~48	朝日ちさと (首都大学東京都市環境学部都市政策科学科)
9:45~10:00	旧鉱山まちの小規模集落明延における景観の継承課題に関する研究	大平和弘	兵庫県立人と自然の博物館	pp. 49~54	

発表セッション③「気候変動・エネルギー」<C会場>

発表時間	タイトル	筆頭著者	所属	掲載頁	座長
10:00~10:15	Taiwan's Nuclear Power Phase-out Decision-Making Process During the Energy Transition Pathway: From a Multi-level Perspective	陳 奕均	京都大学大学院地球環境学舎	pp. 55~60	平野野二郎 (国立環境研究所)
10:15~10:30	気候変動に対する脆弱性についての概念整理とそれにもとづく指標特定スキーム	渡邊 学	(株)イー・コンサル	pp. 61~66	
10:30~10:45	森林資源調査による小規模バイオマス発電プロジェクトの可能性	高田秀之	東京大学大学院 新領域創成科学研究科	pp. 67~72	本下晶晴 (産業技術総合研究所)
10:45~11:00	環境・社会的条件を考慮した地熱導入ポテンシャル評価	長島 匠	東京工業大学 環境・社会理工学院	pp. 73~78	

発表セッション④「地域・制度設計」<C会場>

発表時間	タイトル	筆頭著者	所属	掲載頁	座長
11:00~11:15	個人の意見変化に着目した熟議デザインの評価	竹内彩乃	東邦大学理学部生命圏環境科学科	pp. 79~82	吉田好邦 (東京大学大学院新領域創成科学研究科)
11:15~11:30	就労継続支援にもとづく農福連携の現状ー岡山県と大分県を事例にー	本田恭子	岡山大学大学院環境生命科学研究科	pp. 257~262	
11:30~11:45	契約方式による民有緑地公開制度の運用実態と市町村の今後の方針に関する研究	森山雅大	三重大学大学院工学研究科	pp. 89~94	

発表セッション④「地域・制度設計」<C会場>

発表時間	タイトル	筆頭著者	所属	掲載頁	座長
11:45~12:00	産直ビジネスにおけるプラットフォーム化の動きとその設計	眞鍋邦大	神戸大学大学院農学研究科	pp. 95~100	松岡俊二 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科)
12:00~12:15	インドネシアの気候変動緩和とプロジェクト実施に係る国内関連制度上の課題：JCMを題材に	市原 純	(公財)地球環境戦略研究機関	pp. 101~106	
12:15~12:30	野生動物の再導入実施自治体における住民意識の類型化の試み	高橋正弘	大正大学人間学部	pp. 107~112	

発表セッション⑤「生態系・水環境・熱環境」<C会場>

発表時間	タイトル	筆頭著者	所属	掲載頁	座長
13:15~13:30	港北ニュータウンの保全湿地に移入されたニホンアカガエル(Rana japonica)個体群の定着状況と緑地環境条件の把握	横田樹広	東京都市大学 環境学部	pp. 113~118	黒田貴綱 (日本大学生物資源科学部)
13:30~13:45	暑熱環境下における空間利用の違いによる人体生理・心理反応の評価に関する研究	三坂育正	日本工業大学	pp. 119~124	
13:45~14:00	全天球カメラ, Google Street View, Digital Surface Modelによる天空率測定	Yuhwan SEO	千葉大学大学院園芸学研究科	pp. 125~130	
14:00~14:15	大阪府内社寺林のコジイおよびアラカシの衰退と土壌pHとの関係	伊藤和男	大阪府立大学高専	pp. 309~312	三原真智人 (東京農工大学地域環境科学部)
14:15~14:30	流下距離と運搬距離に着目した農業用水路でのイシガイ類の繁殖特性	古川 豊	福島県いわき農林事務所	pp. 131~136	
14:30~14:45	東京都内の表層水に含まれる薬剤耐性菌に関する調査～薬剤耐性の傾向と分布から見えてくる現状～	蜂谷真基	中央大学商学部	pp. 313~316	

発表セッション⑥「環境教育・市民参加」<D会場>

発表時間	タイトル	筆頭著者	所属	掲載頁	座長
9:00~9:15	テクノ・ネット依存症傾向に伴う悪影響と新型うつ傾向への予防策の縦断研究	坂部創一	創価大学理工学部	pp. 137~142	高橋正弘 (大正大学人間環境学科)
9:15~9:30	自然体験型環境教育のためのバリアフリー教材に関する研究	山口雪子	岡山短期大学 幼児教育学科	pp. 317~322	
9:30~9:45	バングラデシュ・クルナ市の小中学校におけるウエイスト・ピッカーと廃棄物管理をテーマとした環境教育プログラムの開発と児童・生徒の学習理解度に関する考察	佐藤秀樹	(公社)日本環境教育フォーラム	pp. 323~328	
9:45~10:00	ソシマヤマネコの交通事故対策をめぐるボランティア活動と環境教育的意義について	本田裕子	大正大学人間学部	pp. 329~334	大塚佳臣 (東洋大学総合情報学部)
10:00~10:15	スクールエコセンター設置を伴う環境教育プログラムの実施と生徒の意識・行動	松本万里子	京都大学大学院地球環境学舎	pp. 143~148	
10:15~10:30	生活環境圏のCO2濃度データを利用した環境教育プログラムの開発とその教育効果	高木祥太	名古屋産業大学大学院環境マネジメント研究科	pp. 149~154	

発表セッション⑦「レクリエーション・観光」<E会場>

発表時間	タイトル	筆頭著者	所属	掲載頁	座長
9:00~9:15	富士登山者による混雑予想カレンダーの利用と混雑回避	山本清龍	東京大学大学院農学生命科学研究科	pp. 155~160	籠 義樹 (麗澤大学経済学部)
9:15~9:30	東日本大震災後の石巻市の来訪者意識にみるダークツーリズムの課題と可能性	佐々木薫子	北海道大学大学院文学研究科	pp. 161~166	
9:30~9:45	ヒヤリハット体験における主因および背景・間接要因の分析に基づく山岳遭難予防策の検討	小林昭裕	専修大学経済学部	pp. 167~172	瀬沼頼子 (昭和女子大学人間社会学部)
9:45~10:00	首都圏近郊都市における民有樹林地の公開イベントに対する来訪者の認識の世代間比較	長原すみれ	千葉大学大学院園芸学研究科	pp. 173~178	

発表セッション⑧「環境心理」＜E会場＞

発表時間	タイトル	筆頭著者	所属	掲載頁	座長
10:00～10:15	一般家庭における食品ロスに関する消費者の意識と行動の関連	和田有朗	滋賀県立大学 環境科学部	pp. 179～184	中久保豊彦 (お茶の水女子大学基幹研究院)
10:15～10:30	風力発電事業の計画段階における環境紛争の発生状況と解決要因	安喰基剛	東京工業大学環境・社会理工学院	pp. 185～190	
10:30～10:45	脱炭素社会に対する意識・態度の個人差に関する研究 ～大学生アンケート調査をもとに～	木原浩貴	京都府立大学生命環境科学研究科	pp. 191～196	
10:45～11:00	沿道住民の街路樹の維持管理への参加意欲に影響する要因の構造	川口将武	大阪産業大学デザイン工学部	pp. 197～202	杉本卓也 (千葉商科大学政策情報学部)
11:00～11:15	CCSに対する地域住民の認識－北海道苫小牧市における質問紙調査より－	長岡 篤	東京工業大学環境・社会理工学院	pp. 203～208	
11:15～11:30	南信州における地域独自の環境マネジメントシステムの社会的受容性に関する分析	中村 洋	地球・人間環境フォーラム	pp. 209～214	
11:30～11:45	消費者購買データの統計モデリングによる環境意識とLED照明購買行動の関連性分析	藤野友和	福岡女子大学 国際文理学部	pp. 215～220	藤橋亜矢子 (東洋大学国際観光学部)
11:45～12:00	中古家電製品の購入に対する消費者受容性：持続可能な消費に向けて	文 多美	東京大学大学院工学系研究科	pp. 221～226	

発表セッション⑨「地域・農村」＜E会場＞

発表時間	タイトル	筆頭著者	所属	掲載頁	座長
13:15～13:30	式根島浅海域CO2シープに対するダイビング事業者と漁業従事者の認識	氏家萌美	筑波大学生命環境学群	pp. 227～232	長坂貞郎 (日本大学生物資源科学部)
13:30～13:45	地域特性と区会規約の関連性に関する考察	温井達也	(株) プレイスメイキング研究所	pp. 233～238	
13:45～14:00	木曾川上流部における洪水対策の歴史的経緯-猿尾(水制)の築造に注目して	馬場慎一	太栄コンサルタンツ(株)	pp. 239～244	
14:00～14:15	組織面からみた農業水利環境ストックの継続的な維持管理の要因と課題	新田将之	東京農工大学大学院連合農学研究科	pp. 245～250	笹田勝寛 (日本大学生物資源科学部)
14:15～14:30	山林を中心とした過疎地域における放置資産の所有動向比較	片野洋平	鳥取大学農学部	pp. 251～256	
14:30～14:45	道の駅の運営課題と設置の期待効果～近畿圏の道の駅へのアンケート調査の結果から～	小塚みすず	神戸市立工業高等専門学校	pp. 83～88	

2) ポスター発表

＜B会場＞

発表時間 (ポスター展示時間)	タイトル	筆頭著者	所属	掲載頁	
11:45～13:45 (11:00～14:30)	オーニングによる暑熱緩和および紫外線遮蔽効果の実証的研究	渡邊慎一	大同大学工学部	pp. 263～268	
	テキストマイニングを用いた緑の癒し効果としての感情体験の抽出	古賀和子	千葉大学大学院園芸学研究科	pp. 269～274	
	地方自治体における気候変動適応策の関連部局の認識の可視化	岩見麻子	法政大学・地域研究センター	pp. 275～280	
	未利用パークを燃料とする地域内バイオマス熱供給システムの熱力学的評価	新井颯太	日本工業大学大学院工学研究科	pp. 281～286	
	歩行者から見た街路樹の「枝張り一歩道幅員比」による景観イメージの評価	今西亞友美	近畿大学総合社会学部	pp. 287～290	
	Protected Area Network Act of the Marshall Islands: Analysis on Stakeholders Responses and Capacity Development Needs	小林正典	笹川平和財団海洋政策研究所	pp. 291～296	
	イシガイ類の生息条件に着目した農業用水路の環境構造	菊地朋希	パシフィックコンサルタンツ(株)	pp. 297～302	

第 15 回 環境情報科学ポスターセッション

質疑応答時間（前半） 11:45～12:45

発表 No.	ポスタータイトル	発表者名（所属）
1	日本の自治体における SDGs の認識状況：未来都市の計画・事業内容を題材として	増原 直樹（総合地球環境学研究所）
3	嶺岡山系における地質と自然生態系の市民調査の結果から見た地域資源活用の可能性	浅田 大輔（NPO 法人大山千枚田保存会）
5	里山水系の水質特性に基づく窒素・リン低減サイトに関する研究	山崎 慶太（株式会社竹中工務店）
7	北海道東部西別川流域における河川水質からの土壌炭素含有率の推定	佐々木 章晴（北海道大学農学研究院）
9	ステークホルダー対話による気候保全計画策定における研究機関の役割	竹内 彩乃（一般社団法人環境政策対話研究所、東邦大学）
11	ドイツにおける電力事業者の選択要因に関する定量的分析～ロジックモデルによるシュタットベルケの選択確率の推定	小谷 将之（国土交通省）
13	地域エネルギー事業への展開に向けた住宅の電力消費データ解析	平野 勇二郎（国立環境研究所）
15	中国電力体制改革に関するR-SCPパラダイムを用いた分析研究	董 蘊萌（早稲田大学）
17	太湖の富栄養改善の可能性と課題についての考察	リョウ エンカン（早稲田大学）
19	持続可能な里地里山保全活動の条件に関する研究	胡 夢君（早稲田大学）
21	自動車に依存しない移動手段利用意図の心理モデルの検討—真駒内地区における事例調査—	水鳥 翔伍（北海道大学）
23	都市における緑地空間の景観評価に関する研究—東京ミッドタウン・ガーデンを対象として	呂 媛媛（早稲田大学大学院）
25	もし 311 が発生したのが真夏だったら—震災後の帰宅行動と熱環境上のリスクに関する研究—	劉 旭（筑波大学大学院）
27	持続可能な農業の実現に向けた農家の GAP 認証取得に対する影響要因分析	志田 夏希（横浜国立大学）
29	タイトル：抗菌薬の適正使用のための効果的な PR 方法とは？	小山 優花（中央大学）
31	参加型美化活動を通じた市民の地域帰属意識の醸成と変容に関する研究—本庄早稲田地区での花植ワークショップを例として	小笠原 正人（早稲田大学大学院）
33	浄化困難な粘性土壌中クロロエチレン類の効率的加温浄化手法の開発～物質別の加温浄化促進メカニズムの解明～	宮川 涼（横浜国立大学大学院）
35	フィリピン・ラグナ湖周辺を対象とした将来土地利用シナリオによる流出量変化の把握	北野 瑛詩（東京都市大学）
37	東京都海上公園の整備にみられる水辺の環境改善効果に関する研究	田中 孝登（日本大学）
39	土壌動物 Megascolidae sp. が土壌の理工学的特性に与える影響に関する研究	金子 貴徳（東京農業大学大学院）
41	洋上風力発電事業における漁業振興策の検討プロセス—長崎県五島市を事例に—	小野 澤良（東邦大学）
43	Comparison of New York and Tokyo' s material stock of buildings estimation model using nighttime light data	DIMA SELENGE（名古屋大学）
45	大学における環境配慮行動啓発ポスターの比較調査	鈴木 健次郎（東邦大学）

■第 15 回環境情報科学ポスターセッション

日時：2018 年 12 月 17 日（月）11:00～14:30（展示時間）
11:45～13:45（質疑応答）

場所：日本学会館 大講堂（B 会場）

主催：一般社団法人環境情報科学センター

運営：環境情報科学ポスターセッション実行委員会

■研究者交流会

日時：2018 年 12 月 17 日（月）17:30～19:00（予定）

場所：日本学会館 大講堂（B 会場）

会費：準会員 2,000 円／正・賛助会員 3,000 円

非会員学生 2,500 円／非会員一般 4,000 円

質疑応答時間（後半） 12 : 45 ~ 13 : 45

発表 No.	ポスタータイトル	発表者名（所属）
2	農のある暮らしの豊かさをシェアする「マルシェコミュニティ」	豊嶋 尚子（京都大学大学院）
4	高解像度オルソモザイクを用いた Advanced-Satoyama Index によるエコトーンの定量的評価	時任 美乃理（京都大学）
6	住宅エネルギー対策の「都市」と「地方」の相違と今後の課題 ~日独比較による FIT 買取期間終了後の展望	土屋 依子（国土交通省・明治大学）
8	夏季屋外における遮熱強制通風服の効果に関する実験	三坂 育正（日本工業大学）
12	市街地路傍におけるシダ類の気候変動指標化に関する研究 九州、沖縄の事例から	村上 健太郎（北海道教育大学）
14	水環境ガバナンスの構築に関する研究-中国「江南水郷」を例として-	趙 書恒（早稲田大学）
16	中国都市における交通渋滞による CO2 排出量についての分析的研究	敵 辰旭（早稲田大学）
18	日本の企業 10 社の SDGs への取組の特徴に関する研究	高瑩（早稲田大学大学院）
20	マップを通じた住民の SDGs 理解促進の試み	和田 恵（慶應義塾大学大学院）
22	健康増進を目的とした公園の利用実態とその在り方	村岡 治城（関西大学大学院）
24	企業環境活動が消費者の環境イメージに与える影響について~飲料業界を例として~	ZHONG XIAOWEN（早稲田大学大学院）
26	自転車を使用した移動観測法によるつくばセンター周辺の気温分布図調査とヒートアイランド現象の把握	手塚 勇太（筑波大学）
28	東京都内医師会の抗菌剤適正使用に関する啓発活動~HP から見る活動状況~	金子 直樹（中央大学）
30	自動車保険データを用いた交通事故関連指標の推計に関する研究	加藤 正康（中央大学）
32	小規模耕作放棄地の再生利用活動における促進・阻害要因の明確化-埼玉県本庄市小和瀬地区における耕作放棄地再生事業を例として	田 倩倩（早稲田大学大学院）
34	モンテカルロシミュレーションによる建築物滞留年数の推計-名古屋市中心部及び北九州市小倉北区の 4d-GIS を用いて-	大澤 啓裕（名古屋大学）
36	中山間過疎地域にみる洪水被害者の生活再建プロセスとその特徴	飯塚 智哉（日本大学大学院）
38	2016 年台風 10 号における岩泉町の住民避難行動の実態	野中 康太郎（日本大学）
40	Eco-DRR 導入時の経済的効果に関する研究	森崎 理哉（慶應義塾大学大学院）
42	空港・港湾を対象とした輸送インフラ毎の物質ストック利用効率の推計 -旅客数及び貨物量と物質ストックの比較	松尾 佑磨（名古屋大学）

■第 15 回環境情報科学ポスターセッション B 会場ポスター展示位置

